

## 畔(くろ)ぬり作業が始まりました

### ～暖かさに誘われて 早まる農作業～

暖かい日差しのなか、新年度を迎えました。  
鳥海山を望む遊佐町豊岡では田んぼの畔(くろ)ぬり作業が始まりました。  
早い雪解けも手伝って、農家の方々の春作業は例年より幾分早いように感じます。



この度の人事異動により、3代目NN・REIKOが、引き続き皆さまへ庄内の農業農村整備の『旬』をお伝えして参ります。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

～さわやかに晴れました～

鶴岡市、酒田市で桜の開花宣言がありました。  
“花曇り”の季節には珍しく、スッキリと晴れた庄内平野。  
この時期に、鳥海山と月山が同時に見えることは稀なことです。



鳥海山

月山と農作業車

庄内平野は、畔(くろ)ぬり作業が終わった田んぼが多く見受けられ、水を張る準備が着実に進められています。

農楽里(norari)発行！

～農山漁村の元気ある情報を発信～

農楽里『norari』は、農山漁村の地域活動を一般の方々に広く周知し、活動への理解促進と都市住民等の活動参加を促進する情報誌として、年4回発行しています。

9月10日・11日に開催される『全国豊かな海づくり大会』を控え、最新号(2016年春号Vol.20)は、「漁村のいま・・・」として、漁村で頑張っている方々にスポットを当てた庄内地域特集となっています。



下記 山形県HPアドレスにアクセスして、ぜひご覧ください。

<http://www.pref.yamagata.jp/sangyo/nogyo/nosangyoson/6140017norari.html>

## ～北楯大堰で浚渫(しゅんせつ)作業～

かんがい期を控え、農業用施設を管理する土地改良区では、農業用施設の点検作業が大詰りを迎えています。

最上川土地改良区が管理する北楯大堰で、沈砂池の浚渫作業が行われました。



北楯大堰は、約6,500haの受益を管理する最上川土地改良区の主要施設のひとつです。作業は2日間で終了し、15 m<sup>3</sup>程の土砂を撤去しました。



かんがい期を待つ北楯大堰

今年は積雪が少なかったため、用水不足が心配されます。

大事な水を有効に活用するために、管内の土地改良区では農業用施設の点検作業が急ピッチで進められています。

## ～遊佐町 中山河川公園の桜～

写真は、4月11日の遊佐町中山河川公園の桜の状況です。  
中山河川公園は『ゆざ桜廻廊』の一押しスポット。今週末には、見ごろとなりそうです。  
鯉のぼりも元気に泳いでいました。



第304回のNN・REIKOで『norari』春号の発行についてお知らせしました。  
掲載にご協力いただいた、さけます増殖資源加工センターにお邪魔したところ、鮭の醤油漬焼  
作業の真っ最中。丹念に炭火で焼いた鮭は、皮はパリパリ、中はふっくら、いい香り。



庄内地域は海産物に恵まれているため、川魚を食べる習慣がありませんが、ぜひ一度食べて  
このおいしさを知ってほしい、それが佐藤代表の願いです。

詳細と問合せ先は、『norari』2016年春号をご覧ください。  
(山形県HPからご覧になれます)

今年度もよろしく

## ～農地地すべり巡視員 委嘱式～

農地地すべり巡視員は、地すべり防止区域を適正に管理することを目的に、日常点検と豪雨や地震等発生時の緊急点検をお願いしている方々です。



庄内管内5箇所の農地地すべり巡視員の方々は、どなたもベテランですが、今年度も引き続き、自らの安全を第一に点検していただくよう、お願いしました。



今年は例年より積雪量が少なく、雪解けも早まっています。  
来週から各地区の融雪期定期点検が始まります。

～桜・菜の花・チューリップが見ごろ～

鶴岡市千安京田にある「いこいの村 庄内」では、来週から始まるゴールデンウィークを前にチューリップが咲き始めました。



ピンク、黄色などの春色とスッキリ晴れた青空。この鮮やかさに感動しました。



第306回『まもなく見ごろ』でご紹介した、遊佐町中山の桜は、多くの人でにぎわいをみせています。



皆さん、外に出かけて、春を体感してみましょう。  
田んぼでは、耕起作業が始まりました。

### ～農地地すべり防止区域の点検開始～



県が管理する農地地すべり防止施設の融雪期定期点検が始まりました。

地すべり防止区域は雪深いところが多いため、施設周りの雪が融ける毎年4月末から5月中旬に点検を行っています。

融雪期定期点検は、農地地すべり巡視員さん(詳細:第307回 今年度もよろしく)と県と一緒に実施し、点検ポイントの確認を行います。

施設によっては、年々機能が低下しているものもあり、状況を見て今年度の管理方法を検討しています。



鬼坂峠地区 集水井



添川地区 水抜きポーリング



東岩本地区 水抜きポーリング

今年は積雪が少なかったため、例年より早めの点検となりました。

今後は、巡視員の皆さんに毎月点検していただき、状況に変化があれば、現地を確認のうえ、対応していきます。



～刈屋梨の受粉作業が始まりました～



酒田市刈屋地区で梨の受粉作業が始まりました。  
好天が続き、今年の受粉作業は、例年より1週間ほど早くなりました。  
限られた期間で、確実な受粉を行うため、梨畑には10名ほどの方々が作業を行っていました。



刈屋梨の花と鳥海山



受粉作業 好天のうちに2度行います

鶴岡市大網(旧朝日村)の七五三掛桜は、ただいま3分咲き。  
七五三掛桜は、白い花の状態です。満開を迎え、散り際にピンク色に変わります。  
その変化も楽しみのひとつです。



～全国豊かな海づくり大会開催に向けて～



平成28年9月10日、11日に『第36回全国豊かな海づくり大会～やまがた～』が庄内地域で開催されます。

つくり育てる漁業の推進を通して水産業の振興発展を図ることを目的に、各県持ち回りで毎年行われるもので、山形県としては初めての開催となります。

大会にいらっしゃる皆さまをお迎えする準備が各地で始まりました。  
雨が降るなか、庄内総合支庁付近の県道にノボリ旗を設置しました。



ノボリを立てるために、まずはパイプを打込みます。



立ったノボリは、庄内の風に吹かれてひるがえり、いらっしゃる皆さまに手を振っているように見えました。

庄内地域では、豊かな海づくり大会に向けて、おもてなしの準備が本格的に始まります。

～満開から葉桜へ～



鶴岡市大綱(旧朝日村)の七五三掛桜については、第310回『晴れた日の仕事』でもお伝えしました。

4月26日に3分咲きだった七五三掛桜。

今日行ってみると、写真のような状況でした。



七五三掛桜は、白い花の状態で満開を迎え、散り際にピンク色に変わるといわれています。

今年は、葉の成長が幾分早いようです。満開を見逃しちゃったなあ・・・

～大区画ほ場で水稲播種～

幅60m×長さ250m 1区画1.5haのほ場を整備した西郷北部地区。  
今年度も引き続き、低コスト栽培実証が予定されています。  
今日は、鉄コーティング直播の実演が行われました。



8条点播



作業は1ほ場2時間程度



農道ターン

農道ターンにより、作業時間の短縮、田面が荒れないなどの効果が確認できたようです。

～地すべり防止区域施設で作業～

4月に融雪期点検を行った、管内5地区の地すべり防止区域。  
そのなかの一つ、添川地区で施設管理作業を実施しました。  
地すべり防止施設の機能を十分に発揮するには、適時的確な管理が欠かせません。  
今日は、融雪期点検において土砂で埋まっていた水路の土砂撤去、吐出し量が少なかった水抜きボーリングの洗浄作業を行いました。



土砂を撤去して水の流れを確保



検尺棒で詰まりを取ります

農地地すべり防止区域における施設の管理は、県が行っています。  
今後も定期的な点検が必要です。

### ～地域活性化のために～

県では、農村地域の活性化に理解と熱意のある方を「農村環境保全指導員」として委嘱し、活動への支援を行っています。

農村環境保全指導員の任期は4年間。庄内管内14名のうち、3名の方が更新され、旧温海町と旧酒田市の2名の方が新たに委嘱されました。



旧温海 五十嵐さん



旧酒田 佐藤さん

この事業は、ふるさと農村地域活性化基金事業を活用し、ふるさとの豊かな自然と美しい景観を守り、土地改良施設、名所旧跡及び祭りなどの歴史的文化遺産を守り育むための地域活動のリーダーを養成することを目的としています。

今後、指導員の方々の活動を紹介していきますので、お楽しみに。

～やまがたの棚田20選 暮坪～

県内唯一、海が見える「暮坪の棚田」。



本日は、暮坪集落の方々総出で田植えを行いました。  
このほ場で収穫したお米は、毎年、集落の1人暮らしのお年寄りにおすそ分けされています。



はだして気持ちがいい



一直線の水平線と棚田の畦畔

もうひとつのほ場には、もち米を植えました。11月には、もちつき大会も予定されています。  
今年度も地域を元気にする活動が目白押しな暮坪。  
皆さんも新緑の棚田から海を眺めてみませんか。



田植え機の作業

～水土里ネットいなば 田んぼの学校～

水土里ネットいなばの恒例行事、孟宗掘り&田植え体験が行われました。  
毎年人気のこの企画、今回は100人を超える参加で大盛況でした。



コツをつかんで黙々と田植え



恒例のクイズ大会

昼食には、おいしい孟宗汁、おにぎり、ライスバーガーをいただいて、おなかも心も大満足の1日でした。



～庄内町立余目第一小 4年生～

ほ場整備事業をきっかけに、小学校と地域が一緒になって、メダカの保全や環境学習が始まった庄内町家根合地区。

今年も、恒例の田植え作業を行いました。



田んぼの水はどこから来るの？



初めての形付け作業



苗は5本くらいずつ植えます



形付けした線を踏まないように

昔はどの家の蔵にも掛けてあった“形付け枠”。初めて見た道具で、地域の方からコツを聞きながら真剣に取り組みました。

余目第一小では、5年生が学校田で種まきから収穫までの作業、全てを体験します。参加した4年生からは、「5年生でもこの体験を活かしたい」との感想がありました。

今年度も、地域の皆さんの気持ちが盛り上がる活動のお手伝いをしていきます。

～庄内町立余目第一小 2年生～

ほ場整備事業をきっかけに、小学校と地域が一緒になって、メダカの保全や環境学習が始まった庄内町家根合地区。

余目第一小学校2年生が家根合地域にあるメダカ保全池において、これまでの地域活動の歴史と現在の活動について勉強しました。



メダカ保全池はなぜできたの？



コイがいるよ

自分たちの先輩が、地域の恵まれた環境を残していくために、大人たちに想いを伝え、現在の活動に至っていることを佐藤昭一さんが説明しました。



近くの農村公園で、パネルを使い、これまでの活動を振り返りました。  
4年生になったら、田植えや魚の学習を行います。それまで、楽しみにしていてね。

～最上川の流れて感じて～

最上川と立谷沢川の合流点のちょっと上流にある『最上川さみだれ大堰』を知っていますか？

『最上川さみだれ大堰』は、河床の安定を図ることで洪水を防ぐとともに、上流にある2つの農業用水の取水口(最上川取水口と草薙頭首工)からの安定的な取水確保を目的に造られた施設です。

堰の本体は大きな風船のような袋体で、そこに空気を送り込んで、長さ209.5m、高さ2.7mのゴム堰を起立させる構造になっています(ゴム堰としては我が国最大規模)。



最上川さみだれ大堰



最上川取水口(左岸)



草薙頭首工(右岸)



魚道(右岸)

堰の両側には「魚道(ぎょどう)」も設置され、右岸(上流からみて右側)の魚道には、そこを行き来する魚を観察できる「フィッシュ・ギャラリー」が設置されています。運がよければ、たくさんの魚を見ることができるかもしれません。



フィッシュ・ギャラリー



「堰・ダムカード」(来訪者限定)

「フィッシュ・ギャラリー」は、月～金(5月～9月は土・日・祝日も)の9時～4時半に開放。見学料は無料です。

(管理者:国土交通省酒田河川国道事務所飽海出張所)

<http://www.thr.mlit.go.jp/sakata/river/samidare/index.html>

～市民農園月山レンタルファーム～

月山高原も春を迎えています。  
鶴岡市民農園月山レンタルファームにおいて、種まきイベントが行われました。  
いい景色のなか、多くの方に月山麓の魅力を知ってもらおうと企画されたイベント。  
約30名ほどの親子でにぎわいました。



サツマイモ苗の植付け



ゴマの種まき



ベニバナの種まき



作業終了

サツマイモ、ゴマ、ベニバナ。どれも収穫が楽しみです。  
たまに水かけに来て、成長を見守ってね。

## アサガオ定植

### ～ベランダでおおきくなあれ～

アサガオの苗をいただきました。珍しい、きれいな花を咲かせるとのこと。  
さっそく、プランターに植えました。



アサガオの苗



2つのプランターに定植



おおきくなあれ



こんなにきれいな花が咲く予定

どんどんツルが伸びてきたので、支柱を立ててみました。  
すると、みるみるうちにツルが絡まり・・・アサガオの日々の成長に感動。



アサガオのような目覚ましい成長は無理ですが、皆さまに楽しい情報をたくさんお届けし、自ら成長できれば・・・と思っています。

## アサガオ開花

～咲いた♪咲いた♪～

早くも、楽しみにしていたアサガオの花が咲きました！



明日以降も楽しめそうです。



全国豊かな海づくり大会まで100日を切りました。

庄内管内では、お客様を“美しい庄内”で迎えるため、環境美化の取組みが始まっています。

～安全安心 めだかの里米～

庄内町家根合地域のめだかの里米水田において、ふれあいホーム家根合の子どもたちによるメダカの放流が行われました。



1匹のメダカは500個の卵を産みます



元気に泳いでね

この地域120haの水田では、メダカが棲んでいる間は、農薬等を使いません。

安全安心な米『めだかの里米』として作付され、大人も子どもが関わって、環境保全を意識した活動を継続しています。



メダカを放していることを示す立札

地道な活動ですが、子どもたちの将来を思う大人たちの想いが継続の原動力になっています。放したメダカは、7月下旬の中干し前に捕まえて、メダカ保全池へ引っ越す予定です。

### ～例年より早めの収穫～

山形県はさくらんぼ全国生産量の7割を占める『さくらんぼ県』。もちろん庄内でも生産されています。内陸に比べると生産量が少ないため、庄内産さくらんぼを目にする機会は少ないのですが、最近は観光さくらんぼ園にも力を入れています。



旬をむかえた『紅秀峰』



水田地帯にあるさくらんぼ畑



さくらんぼの下で箱詰め作業

今年は例年より収穫が早く、鶴岡市羽黒町にあるさくらんぼ園では、朝5時から収穫作業をしています。この農園では昭和60年頃に水田の転作として始め、今では約60アールの畑で栽培しているそうです。

庄内の観光さくらんぼ園は「やまがた庄内 さくらんぼ」のノボリ旗が目印。  
詳しい情報は、「庄内観光 さくらんぼ」で検索してください。

(<http://www.mokkedano.net/course/cherry/>)



～農村環境保全指導員の活動状況①～

農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

6月10日、旧鶴岡の鈴木農村環境保全指導員が三瀬保育園の年長さん9名と野菜づくり体験を行いました。

園児の皆さんは、デイサービスはちもり利用者の皆さんに見守られ、さつまいも畑の草むしり、トウモロコシの定植、水やり作業に一生懸命取り組みました。

園児の皆さんは、日頃から土に触れる機会が多いためか、作業がとてもスムーズ。



これは何の苗でしょう？



草むしりも一生懸命



トウモロコシの定植 やさしくやさしく



暑いからたっぷり水をあげよう

子どもにとって、自分が役に立っている、という実感を持つことが自信になっていくそうです。「おおきなあれ」とたっぷり水とおまじないをかけました。

～家根合地域環境保全活動～



庄内町立余目第一小学校4年生が、環境学習の一環として、家根合のメダカ保全池を訪れました。まずはメダカ保全池を散策。どんなところを泳いでいるのかな？まとまって泳ぐ姿をみつけるとみんなが集まって観察が始まりました。



「メダカのはかせになろう」と題して、博士になるために事前に用意した質問に、家根合地区の佐藤昭一さんが丁寧に答えてくれました。



今回の学習会で、博士に近づくことができたでしょうか。  
自ら関心を持つことが、学習の第一歩。  
家根合地域の自然に触れて、こたえをみつけることできる・・・恵まれた環境を活かし、楽しんで学んでほしいと思っています。

～ぐんぐん伸びています♪～

6月16日のアサガオ。こんなに花をつけました。  
日々の管理がよかったのでしょう(板垣さんありがとう)。  
4階に向かって、ツルもぐんぐん伸びています。



今日は、梅雨らしいどんよりした天気となりました。  
久しぶりにまとまった雨が降ったように思いますが、昨夜から今朝にかけての降雨量は、鶴岡で25mm。  
庄内平野を潤す、ほどほどの雨が期待されるところです。

県内各地の降雨量や警報の情報は、山形県河川・砂防情報システムが便利です。

<http://www.kasen.pref.yamagata.jp/bousai/main.html?fnm=openMap&no=1&no2=0>

～梅雨前線豪雨に備えて～

6月23日、管内の市町、土地改良区の実務担当者を対象とした『農地・農業用施設災害復旧事業担当者研修会』が行われました。



担当者は、災害発生により危機的事態となった場合においても、迅速かつ的確な対応が求められるため、日頃からの情報交換はもとより、緊急時の情報の共有はますます重要となります。

今後の備えとして、被害の把握、調査から工事発注・完了に至るまで、円滑に災害復旧事業を進めていくための実務を確認しました。

<災害復旧事業の対象となる災害>

異常な天然現象による災害

○降雨：最大24時間雨量が80mm以上。なお、80mm未満であっても次の場合は対象となる。

①時間雨量が概ね20mm/hrであった場合

②上流域の異常降雨による河川等の洪水または増水によって発生した場合

○風速：最大風速15m/s以上(10分間平均)

○洪水：水位がはんらん注意水位以上(はんらん注意水位が定まっていない場合は河岸高さの1/2以上)

○地震

○その他異常な天然現象 竜巻、積雪、落雷等

まずは、関係する市町村、土地改良区に連絡、相談してみましょう。

総合支庁では、市町村、土地改良区からの情報を受け、現地調査に同行します。速やかな災害復旧事業の執行に向けたお手伝いをしています。

～排水トンネルと集水井～

鶴岡市大網の七五三掛(しめかけ)地域は、平成21年に雪解け水の影響で大規模な地すべりが発生しました。そこで平成22年度から東北農政局庄内あさひ農地保全事業所が地すべりの変動やメカニズムを調査しながら、対策工事を進めています。

七五三掛地域の地すべりの要因となった地下水を排除するための主な施設に排水トンネルと集水井があります。



地すべり発生の要因について



排水トンネルの作業状況



集水井 排水はトンネルに抜く予定



集水井の内部 深さ50m

排水トンネルの延長は1.5km。地表から最大120m地下に位置し、集水井や落とし込みボーリングにより集めた地下水を川へ導く計画です。

地下水をすみやかに排除することにより、急激な地下水位の上昇を防いでいます。



6月29日、当課と農村整備課の職員が七五三掛(しめかけ)地区の地すべり対策工事の現場研修を行いました。

完了後は、県が施設を管理する予定です。現地や施設の設置状況を理解し、十分に効果を発揮するよう適切に維持していかねばなりません。

東北農政局庄内あさひ事業所では、現場見学の受け入れを行っています。

職場研修や学校の社会科見学、夏休みの自由研究の題材として勉強したい、注連寺を見学するついでに地すべりについて聞いてみたいなど、見学の希望がありましたら、下記アドレスをクリック。

<http://www.maff.go.jp/tohoku/nouson/kokuei/shonai-asahi/genbakenngaku.html>

～久しぶりの青空～

今日は、スッキリと晴れました。

田植えから2か月ほど経過した、庄内平野の状況です。

緑のじゅうたんが広がり、奥には雲がかかった鳥海山も見えました。



この写真は、空撮用カメラを搭載した小型無人航空機ドローンで撮影したものです。

今後も、庄内平野や中山間地域の棚田などについて、これまで眺めることができなかった上空からの風景をお伝えしていきます。

ドローンは、災害発生により立ち入ることが困難な場所の被害状況の把握など、緊急時に活用できる機器でもあります。昨年9月に航空法が改正され、飛行ルールや操作方法については、十分な確認が必要です。

国土交通省HPでチェック！

[http://www.mlit.go.jp/koku/koku\\_tk10\\_000003.html](http://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000003.html)

～笹川わくわく川遊び～

夏らしく、暑い日が続いています。

笹川土地改良区が管理する揚水機場脇の川で『わくわく川遊び』が行われました。



水鉄砲やすべり台で遊ぶ



ペットボトルいかだで対岸へ

わくわく川遊びは、幼稚園児を対象としたイベントで、平成16年度から実施されています。川で遊ぶことが難しい昨今、大人たちが見守っているからこそできる、子どもたちが楽しみにしているイベントの一つです。



楽しかったよ。集合写真

水とふれあい、親しむことによって、水の大切さを感じてもらいたい、それが土地改良区の願いです。

～田んぼから保全池へ引越し～

6月8日に田んぼに放した家根合のメダカ。

1匹あたり500個の卵を産んで、どんどん増えました。



めだかの里米水田

強く丈夫な稲になるように、田んぼはこれから中干しに入ります。7月22日、NPO家根合生態系保全活動センターによるメダカの引越し作業が行われました。

まず、せき止めた排水路へ田んぼの水を一気に抜きます。これにより、メダカは排水路へ移動します。それをタモですくって捕獲し、保全池へ持っていき、放します。

前半は、今年初の試み。余目第一公民館事業「親子DE楽笑くらぶ」の一環として実施しました。みんな無我夢中で、今年はドジョウやザリガニも捕まえることができました。



たくさん捕まえた？



ドジョウもいるよ

後半は、例年どおり「ふれあいホーム家根合」の子どもたちと作業を行いました。

捕まえたメダカは、お家で観察ができる、責任を持って飼うことができる人が、記念に持ち帰りました。



大事に飼ってね

子どもたちの楽しい夏休みがスタートしました。



## 防除ヘリ出動

### ～1班4人体制で実施～

遊佐で、ヘリ防除作業が始まりました。



防除は、出穂前の7月下旬に「いもち病」「紋枯病」、8月中旬以降にカメムシ対策として2回実施します。

7月24日、作業中の方々にお話を伺いました。

こちらの組織は、1班4人で2班体制。450haの散布作業を担っています。1日の作業量は、およそ50ha/班。天候や風の状況を見て、実施しています。



～種を採りました～

満開だったアサガオは、土に近いところから種をつけてきました。  
今日は種をとり、枯れた葉っぱもきれいに取りはらってみました。



足元がさびしくなってきたので、昨日いただいたアサガオの苗を植えてみました。  
うまく成長すれば、長〜くアサガオの花を観賞できる予定です。



大きくなれよ～

今日採った種は、明日、セルポットに播いてみます。上手く芽が出るといいなあ。

～農村環境保全指導員の活動状況②～

農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

8月6日、旧立川の小野寺農村環境保全指導員があらなべ内川公園周辺の池でわんぱくザッコ釣り大会を行いました。

参加者は、8時から風車と水面を眺めつつ、ゆったりとした時間を過ごしました。ただ、連日の暑さもあってか、魚はなかなかエサに食いついてくれません。



風車と釣り大会参加者



荒鍋では珍しく、風がない



参加者には、小野寺指導員から景品のノートが渡されました。来年は、お友達をたくさん誘って参加してね。

秋には、あらなべ内川の外来種駆除も予定しています。

### ～農村環境保全指導員の活動状況③～

農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

8月7日、旧藤島の佐藤農村環境保全指導員が魚のつかみどりを行いました。この活動は、ふじしま夏まつりを盛り上げる一つの企画であると同時に、親水空間の提供による魚のつかみどりをとおして、地域住民に水辺＝「地域の資産」としての価値を再認識してもらうことをねらいとして、毎年実施されています。



掃除の状況



仕上げは小石を拾います

ケガなく楽しんでいただくための堰掃除。中学生ボランティアや山形大学農学部学生、JA庄内たがわ、鶴岡市藤島庁舎、東北農政局、庄内総合支庁職員らが参加しました。

企画を成功させるための準備も、地域の資産を守り、受け継ぐ教育の場となっています。



今年も、大盛況のなか、イワナ1,000匹が捕まえられました。

～ようこそ『ひまわり畑』へ～

8月12日(金)、鶴岡市羽黒町川代の月山高原ひまわり畑に行ってきました。  
ハグロファーム(地元農業者で組織する団体)が、2010年から耕作放棄地を再生する取組みの一環としてひまわりを植えています。



10日から咲き始め、今がちょうど見ごろ。  
夏休みももうすぐ終わりです。夏の思い出に、足を運んでみてはいかがでしょうか。

～農村環境保全指導員の活動状況④～

農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

8月27日、旧温海の五十嵐敏也農村環境保全指導員が日本大学天文研究会の皆さんとスカイランタン体験を行いました。

天文研究会の皆さんは、小国ふる里ふれあい村楯山荘を毎年60～70人規模で訪れ、地域の方々と交流しながら、星を観察する合宿を行っています。

今年は、スカイランタンを製作し、空が薄暗くなったところに飛ばしてみることにしました。



燃料を燃やし、紙袋内の空気が暖まることによって、周囲の空気と比べ軽くなり、上昇する仕組み



飛び立つまで見守る



空とランタンのコントラスト

5分ほどで燃料は燃え尽き、ランタンは落下します。回収しやすいように紐をつけて飛ばしました。飛ばす人も見ている人も楽しめるイベントとなり、来年の企画に期待も膨らむ夜となりました。



五十嵐農村環境保全指導員には、今年度から4年間、指導員として活動いただきます。地域が盛り上がる活動を期待しています。

～香頭ヶ浜にて 海岸清掃ボランティア～

8月28日(日)、職場の仲間と土地改良区職員 総勢11名で鶴岡市香頭ヶ浜の海岸清掃ボランティアを行いました。



例年は、山形県唯一の離島“飛島”において職場研修を兼ねた農道側溝の泥上げボランティアを実施しており、今年も予定していたのですが、台風10号接近のおそれがあるため、急遽中止しました。(昨年の飛島ボランティア活動状況は、N.N.REIKOバックナンバー第284回をご覧ください)

渡航できなくても、私たちができること・・・『全国豊かな海づくり大会』に向けて、お客様をきれいな海岸でお迎えしよう！ということで活動を行いました。

短時間ではありますが、たくさんのゴミを拾うことができました。地道な活動が海岸沿いの美化につながることを実感できた1日でした。



『全国豊かな海づくり大会』は、9月10日、11日に開催されます。きれいな庄内、おもてなしの心でお迎えしましょう。

～山形県からお手伝い～



8月31日(水)、当課の佐藤勇輝が熊本の災害復旧支援のため、庄内空港を飛び立ちました。

9月1日(木)から1か月間、宇城地域振興局農林部農地整備課において、ため池の災害査定及び発注、農道災の測量設計をもとにした査定設計書の作成や工事の発注等の業務にあたります。

山形県から熊本県への農業農村整備事業(N・N)の派遣は初！

現在、1か月交代で来年3月まで、毎月1名が派遣され、復旧業務にあたる計画となっています。



役に立てるよう頑張ります！

多くの経験を積んで、大きくなって帰ってきてね。健闘を祈る！



### ～庄内管内の状況～

9月22日～23日の台風9号による豪雨被害がまとまりました。

24時間に80mmを超える雨量を記録したのは、庄内南部。旧羽黒町を中心に多いところで170mmの豪雨となりました。

被災後、市町・土地改良区の担当者と共に、現地の調査を行っています。



被災原因の特定や復旧工法の検討を行い、復旧工事にどのくらいの時間と費用がかかるか、その試算により、被災農家の復旧意思を確認しています。

復旧工事に取り組むことを確認したうえで、災害復旧事業に申請するための査定準備が本格的に始まります。

【8月22日～23日発生台風9号豪雨被害】庄内管内9月12日確定値

○農地(田・畑)	127箇所	被害額114,040千円
○農業用施設(ため池,頭首工,水路,揚水機,農道)	101箇所	被害額133,463千円
計	228箇所	被害額247,503千円

稲刈りが始まります

## ～黄金色の庄内平野～

9月12日の鳥海山です。



庄内平野は、黄金色の絨毯を広げているようです。

収穫の時期を迎え、台風の進路を見極めながら、明日から本格的に稲刈りが始まります。

～体験してみよう～

実りの秋を迎え、各地で稲刈り体験イベントが予定されています。  
写真は、今年のイベントの暮坪の様子です。



庄内総合支庁農村計画課・農村整備課職員が今年も下記のイベントに参加します。

○水土里ネットいなば

9月25日(日) 9:00～ 水土里ネットいなばにて

○鶴岡市暮坪(やまがたの棚田20選)

9月25日(日) 8:30～ 暮坪棚田にて

作業の状況は、NN・REIKOでご報告します。お楽しみに。

～コンバイン出動～

秋の天気は変わりやすいもの。

今日は、朝から晴れました。庄内平野の田んぼには、各農家のコンバインが出動し、稲刈り作業が進められています。



稲刈り後にできる、このマーク。

コンバインが、田んぼの外側から内側に向かって刈り進めることによって、出来る模様です。

田んぼの長辺刈取り幅と短辺刈取り幅が同じであることから、45°のラインが田んぼ中央に向かって伸びていきます。



庄内平野を上からみると気づくことって多いなあ～

近年は、開水路を管水路にし、無駄なく用水を活用したり、維持管理の軽減を図る工夫がされており、田んぼ内で回転せずに作業ができる(農道ターン)地区もあります。

農道ターンができる地区の刈り取り模様はどうなるでしょう。

今度、上空から眺めてみたいと思います。

稲刈りが終わるころ、庄内平野一面がこの模様になります。

～全国各地から70名が参加～

9月25日(日)、水土里ネットいなば企画の稲刈り体験が行われました。  
水土里ネットいなばの企画は、リピーターが多く、今回もたくさんの参加者でにぎわいました。



毎年参加しているため作業も慣れたもの



真剣に刈り取る姉妹



作業終了 がんばりました

水土里ネットいなばの企画で楽しみなのが、おいしい昼食。  
今日は、この時期ならではの3種類の芋煮と新米のはえぬきおにぎりをいただきました。



塩・醤油・味噌 3種類の芋煮

食事の後は、恒例のクイズで頭も鍛えて、心も身体も大満足。  
次回は、11月に収穫感謝祭が行われる予定です。

～山形で唯一 海に見える棚田～

9月25日(日)、鶴岡市暮坪の棚田で地域の子どもたちが稲刈り体験を行いました。



親子で声をかけ合いながらの作業



杭がけにも挑戦



がんばったよ～

天気がよかったので、ドローンを飛ばしてみました。  
地域の方々の思いを子どもたちにつないでいくことで、棚田の風景が守られていることを実感した1日でした。



～庄内町立余目第一小学校4年生～

9月26日(月)、めだかの里米水田において、余目第一小学校4年生が稲刈り体験を行いました。

午前中に雨が降りましたが、午後には晴れ間も見えて、予定どおり実施することができました。



なかなか体験できない杭かけ作業も、地域の方々からやり方を聞いて、積極的に取り組む姿が印象的でした。

児童の皆さんからは、  
・鎌の使い方が分かって良かった。鎌が危険なことも分かった。  
・稲刈りは初めてだけど、うちは農家なので、今後に生かしたい。 などの嬉しい感想も聞くことができました。



がんばったよ～

家根合地域の活動は、余目第一小学校とNPO法人家根合生態系保全センターが企画運営しているものです。

子どもたちが地域の自然を守りたい、という思いから始まったこれらの環境保全活動や農業体験は、今年で17年目になりました。

～心身ともに!?成長～

9月1日(木)から宇城地域振興局農林部農地整備課において、熊本県の災害復旧支援にあっていた当課 佐藤勇輝の派遣期間も残りわずかとなりました。

災害査定の打合せや準備、設計変更など業務も大詰め。

農地海岸、干拓、石橋など山形にはあまりなじみのない事業の現場にも案内いただき、なかなかできない経験をさせていただいているようです。



石工の研修



霊台橋 日本トップクラスの単一アーチ式



雄亀滝橋(おけだけばし)

中に農業用水路が通っていて、地震により被災。農地整備課で補修予定。

熊本での業務も今週末まで。心も身体も？成長した姿を期待して・・・。

10月からまた別の職員が1か月間、災害復旧支援にあたります。



熊本と天草をつなぐ天門橋(熊本県土木部施工)  
(世界文化遺産 三角西港から撮影)